

データに基づく合理性の盲点

企業年金連合会 運用執行理事
チーフインベストメントオフィサー
濱口大輔 CMA



ビッグデータの時代だ。それをAIで分析する新しい運用手法や運用商品も提案され始めた。前向きに捉えたいが、データにまつわる過去の経験は失敗もあり、必ずしも良いものばかりではない。

まず運用とは違う世界だが、地震学会が東日本大震災後、予測から減災対策へ舵を切ったのが印象的だ。それまで頼っていた100年足らずの観測データで、世界一複雑な日本列島下のプレートや断層の動きを予測するのは無理だと潔く断念した。数千年、数万年単位の自然現象の解析を100年程度のデータに頼った失敗だった。今は古文書の解読も有力な研究対象になっていると聞く。

工学の世界でも失敗があった。福島第一原発の事故原因はいまだ十分に解明されたとは言い難いが、地震→津波→全電源喪失→バルブ・パイプの不具合→人為的ミス→更には政治的介入まで続く負の連鎖を計算できていなかった事故解析上の問題だった。学生時代の実験の経験からすると、一つのバルブの故障確率や人的ミスの確率を実験データに基づいて推計するのは簡単だが、システム全体の事故解析ではそのような部分確率の累乗は意味が無い。故障が故障を招き、ミスがミスを呼ぶ連鎖の解析が必要だが、その系列相関の確率推計は不可能に近い。実験データ